

## 世田谷区 意見を聴く会 議事概要

日時：平成17年12月9日(金) 18時30分～20時00分

場所：烏山区民センター

主催：国土交通省及び東京都

協力：世田谷区

参加者：住民12名

国土交通省	山本 東京外かく環状道路調査事務所長 川端 東京外かく環状道路調査事務所 副所長 鈴木 東京外かく環状道路調査事務所 調査課長
東京都	臼田 外かく環状道路担当課長 藤井 外かく環状道路担当 課長補佐
世田谷区	板垣 道路整備部長 野徳 烏山総合支所街づくり部 街づくり課長 海津 道路整備部道路計画課 道路計画担当係長

提示資料： 東京外かく環状道路（関越道～東名高速）についての考え方  
手続き及び事業の流れと各段階での検討事項  
東京外かく環状道路（関越道～東名高速）(狛江市～世田谷区の区間について)  
東京外かく環状道路東京圏自動車専用道路網図  
外環ジャーナル第19号、第20号  
オープンハウス・意見を聴く会で頂いたご意見（世田谷区抜粋）  
外環（関越道～東名高速）計画概念図（1/10、2/10、5/10）  
東京外かく環状道路（関越道～東名高速）これまでの検討の総括

次第：1 開会 2 あいさつ 3 出席者紹介 4 資料説明 5 意見交換 6 閉会

### 議事概要

#### 1 開会

#### 2 あいさつ

##### 国土交通省

- ・これまで4年間、外環について様々な意見を頂き、議論をしてきて、今年8月に構想段階の議論に区切りをつけた。国と都で改めて外環が必要であると判断し、9月に外環の「考え方」を発表した。
- ・「考え方」発表の経緯、「考え方」及び「計画概念図」の説明をし、計画の具体化の内容や環境に関するみなさまの意見を伺いたい。

##### 東京都

- ・みなさまの意見を聞きながら、計画の案を練っていく。

#### 3 出席者紹介

#### 4 資料説明

#### 5 意見交換

意見：おもな意見は以下のとおり。

##### 【外環の本線について】

- ・外環ができたときの一日の交通量はどのくらいなのか。

（回答：国土交通省）

- ・平成32年に外環が出来たとして将来交通量は、東名～中央道間で7.2万台、中央道～青梅街道インターチェンジ間で8.2万台、青梅街道インターチェンジ～大泉ジャンクション間で10万台を見込んでいる。
- ・平成42年の時点で外環の東名以南まで整備されているとした場合、東名から中央道までの交通量は10万台になると見込んでいる。
- ・東八道路インターチェンジ利用は3万台を見込んでおり、これは中央道の調布インターチェンジよりも若干少ない程度の交通量である。

### 【地上部街路について】

- ・外環を地下化とした場合に、地上部の付属街路はつくるのか。出入り確保のために付属街路が必要ということにならないのか。

(回答：東京都)

- ・昭和41年の都市計画決定では、沿道に住む方の出入りを確保するために付属街路が計画されたが、本線の地下化が決まれば付属街路は原則廃止となる。
- ・本線が地下化すれば、地域住民の住宅はそのまま残る可能性が高く、付属街路を作らなくても現在の道路が利用できると考えている。

### 【環境影響について】

- ・インターチェンジの排出ガスはどれくらいなのか。
- ・計画が具体化されてから環境への影響を提示されても遅い。騒音や排気ガス等環境への影響の数値がなければ住民は理解できない。住民が納得のいくよう説明して欲しい。
- ・排気ガスを地上に出す場所が何ヶ所あって、地上への影響はどの程度なのか。
- ・パンプの換気所の図は、ただ排気ガスを拡散させるだけのように見える。

(回答：国土交通省)

- ・騒音、大気、地下水等の影響は、今後計画を具体化した上で数値等示していく。
- ・構造によって影響が異なるため、道路の構造が都市計画の案として決まれば、その構造をもとに環境への影響を見ていく。
- ・排気ガスは車の流れに沿って流れるので、トンネル出口の部分に換気所を設置することになる。JCT、ICの位置の4箇所が必要と考えている。
- ・現在の考え方だと、換気所は東名、中央、大泉のJTC部と青梅ICに造る事になる。
- ・排気ガスをそのまま排出することはできないので、電気集じん機などで処理した後に出す。
- ・他の換気所の事例によれば、換気所から排出される排気ガスの濃度は、地表部で環境基準値の数百分の1であり、影響は小さいと考えている。

### 【用地・補償について】

- ・大深度部分の家や農地は全て取り除かれて緑地になるのか。

(回答：国土交通省)

- ・計画概念図の中で、実線で囲まれた部分は地上部からの工事箇所用地買収が必要である。点線分は地中での工事のみで、地上部は従来どおりの生活が可能。
- ・大深度に到達するまでの土地については、地下利用の障害の程度に応じた補償をする。

### 【進め方について】

- ・外環の計画が凍結された年と凍結された理由を教えてください。
- ・事業化から工事開始までに、どのくらいの期間がかかるのか。

(回答：国土交通省)

- ・昭和41年に計画決定された当時の外環は高架構造であり、沿線住民、自治体、議会で環境への影響や地域分断の懸念等の理由で反対され、昭和45年に当時の建設大臣が国会で答弁したことで事実上計画がとまり、凍結となった。
- ・工事には約10年と見込んでいるが、その前に測量が例えば約1年かかると思われる。用地買収は何とも言えないが、全ての買収を1～2年で終わらせるのは難しい。